

第73回全国高等学校PTA連合会大会2024茨城大会 WEB参加報告

開催日:令和6年8月22日(木)・23日(金)

開催地:アダストリアみとアリーナ他

アトラクション:茨城県立大洗高等学校 マーチングバンド・ステージドリル

参加者(WEB):江崎、岡、小坂、早川、村岸、柏木

■記念講演

演題:「人材育成の不易流行」

講師:二所ノ関部屋 親方 二所ノ関 寛氏(第72代横綱 稀勢の里)

現役引退後、大学院での学び直し。ゼミを通して他の視点や価値観に触れ、都内ではなく地元の茨城に相撲部屋を作る決心をする。

皆に愛され、怪我に強い力士を育てたい。自身の力士時代の経験から受け身ではなく、自分自身で考え抜くよう指導している。

二所ノ関部屋では基礎運動を最重要視する伝統は守りながらも、新たな試みの育成方法を行っている。

① ひとつの土俵→2面土俵で効率良く。

② 1日2食→1日3食

③ 毎日相撲をとる→基礎運動やフィジカルトレーニングだけを行うなど、相撲をとらない日を作る。

2022年度の二所ノ関部屋の成績は、44部屋の中で勝率1位。

【感想】「すべてを教えるのではなく自分で考える。考えることで勝つための選択肢を多く作り、最適な選択をして臨んでほしい」という言葉が強く心に残りました。



■第1分科会

テーマ「教育の過去・現在・未来」

講演1 弘道館事務所主任研究員 小坪のり子氏

演題 「藩校「弘道館」の教育」

江戸時代、日本の教育は全国に普及していた。それが、日本が近代国家として発展していくことができた一つの要因である。全国に藩校、城下町には私塾、小さな村には寺子屋というような多重構造の教育制度があった。江戸時代の学びは人々の楽しみ喜びであり、自発的な学びが教育の力であった。

【感想】平和を維持するために教育は不可欠であると感じました。

講演2 茨城大学教育学部 教授 加藤 崇英氏

演題 「もっと学校・教育がみんなに開かれる未来を展望する」

子どもたちが主体的に、能動的に、何を学んだらいいかということを探し、選び、学ぶことができるように学校だけではなく、地域の人、専門家や保護者などが積極的に関わって子どもたちの多様な学びや経験を保証していく必要がある。

【感想】これからの教育は子ども一人ひとりに合わせたカリキュラムマネジメントが大切であるということがわかりました。

■第2分科会

テーマ「保護者・教師・生徒が抱える問題と解決法」

講演1 司馬クリニック院長 医学博士 司馬理英子氏

演題「のび太・ジャイアン症候群」

日々5～10分一緒にデザートを食べることでよいので、子どもにポジティブな言葉をかける時間をとってみてほしい。

【感想】子どもに安らぎの居場所を与えられているか、励ましているつもりで追い詰めていないか振り返ることが大事だと思いました。

講演2 有馬法律事務所 弁護士 有馬慧氏

演題「18歳になったら気をつけること～18歳になる前に～」

大人と同じように自分のしたことに対する責任を自分で背負わなければならない。適切な行動ができるよう子どもに教えていくのは親にしかできない。

【感想】18歳成人により、家庭や教育現場にもその影響が広がってきていて、親が学生の頃とは異なる環境に戸惑うことも多くあります。生徒理解や予備知識が必要とされていると感じました。

■第3分科会

テーマ：「新・生きる力と家族の絆」～子どもの心に風邪を引かせない～

講演：7男2女の大家族お母ちゃん 石田 千恵子氏

演題：「子育ては気力・体力・経済力」

親は子の個性を探り、違いを理解し、認めて伸ばす。家に子どもの居場所を作り、手助けが必要な時は手を差し伸べる、ずっと手を掴むのではなく、常に背中を押して温かく支えてあげることが重要。

【感想】背中に人の手の温もりを感じられるような人になってほしいと、親の心にも響くお言葉でした。

■第5分科会

テーマ「これからのコミュニティ・スクール」～地域社会との新たな連携・協働～

講演：国立教育政策研究所 生涯学習政策研究部総括研究官 志々田まなみ氏

演題：学校と地域とでつくるこれからの学校-コミュニティ・スクールとは-

コミュニティ・スクールとは学校と地域団体やPTAなどが協働して学校運営に関わる仕組みである。先生・親-子どもというタテの関係、友達同士というヨコの関係だけでなく、地域の大人とのナナメの関係構築できる可能性のある点で高校での導入に意義はある。

【感想】自分自身も地域の大人として学校にどう関われるのかを考えさせられました。

文責：本部